

知っておきたい

# 「オンライン会議」を もっと効率的&効果的にする秘訣

## カンタン導入でビジネスをサポート

新型コロナウイルス感染症の流行を境にテレワークやハイブリッドワークが一般化し、企業間でオンライン会議の利用が定着している。そんな中で高まってきたのが、オンライン会議をより効率的で効果的な情報交換や商談の場にしたいというニーズだ。そのニーズを満たすためにはオンライン会議の活用を巡る課題を解決しなければならない。本稿では、その課題を解決する方法について事例を交えながら考察し、紹介する。



**PART①** 調査データに見るオンライン会議を巡る課題とは？

**PART②** オンライン会議の課題解決に役立つ日本HPの「Poly」

**PART③** 大手企業の事例に学ぶオンライン会議をカイゼンする方法  
～ UDトラックスが「Poly」で実現したオンライン会議の変革

## PART① 調査データに見るオンライン会議を巡る課題とは？

企業でのオンライン会議が一般化して以降、その利便性が広く認知されると同時に、課題もさまざまに指摘されている。本パートでは調査データに基づきながら、オンライン会議を巡る課題について考察する。

### オンライン会議の利便性は評価されていても……

新型コロナウイルス感染症の流行以降、テレワークやハイブリッドワークが企業にとって働き方の標準的な選択肢となった。それに伴い、日々の業務の中でオンライン会議を行うことが一般化しつつある。

一般社団法人オンラインコミュニケーション協会（以下、オンラインコミュニケーション協会）の調査を見ると、従業員1000人以上の大手企業では、全体の83.6%が社内会議の5割以上をオンラインで行っており、音声のみでのオンライン会議さえもまったく行っていない企業は0.3%でしかない（図1-1）。

また、総務省の2023年の調べ（\*1）によれば、国内のビジネスパーソンの約3人に1人（32.4%）がテレワークとオンライン会議を利用した経験があるという。

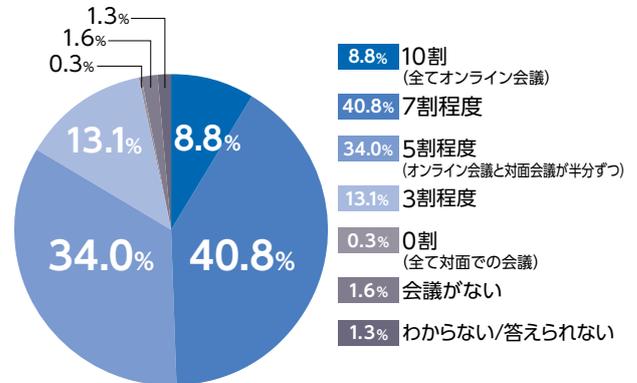
\*1 参考：総務省「情報通信白書 令和5年版」

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r05/html/nd24b220.html>

これらの調査データからは、オンライン会議が商談や情報共有の手段として企業の間にも広く普及し、定着していることが分かる。しかし、オンライン会議が「リアルでの対面会議」（以下、対面会議）の代替として完璧に機能しているかという点、そうとは言い切れない。

図1-2に示したオンラインコミュニケーション協会の調査

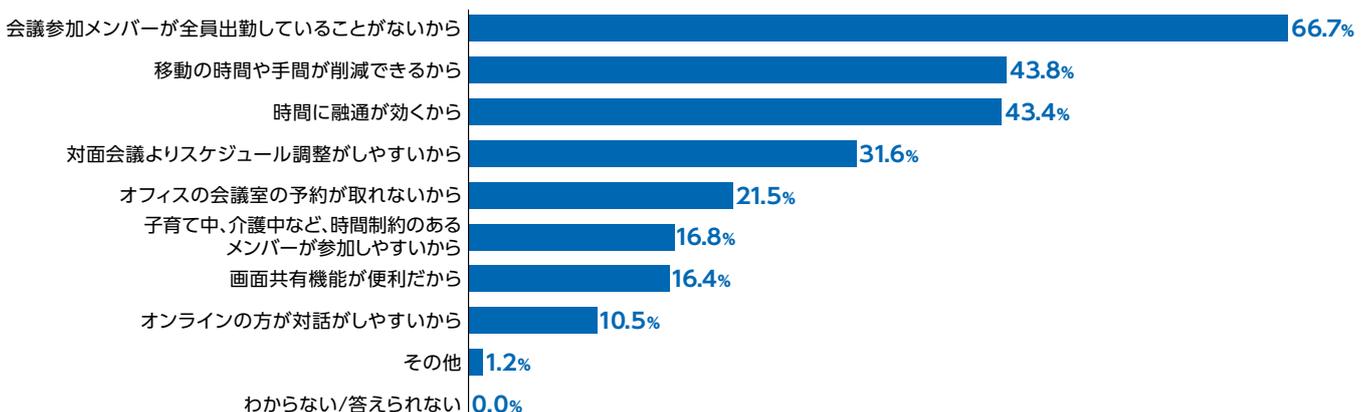
図1-1：企業の社内会議におけるオンライン会議の比率（有効回答306件）



資料：一般社団法人オンラインコミュニケーション協会「大企業のオンライン会議活用に関する実態調査」（2023年10月調査）より  
<https://onlinecommunication.jp/457/>

データを見ると、大手企業がオンライン会議を使う最大の理由は「会議参加メンバーが全員出勤していることがないから」（回答率66.7%）で、それに「移動の時間や手間が削減できるから」（同43.8%）、「時間に融通が効くから」（同43.4%）といった理由が続いている。一方で「画面共有機能が便利だから」（同16.4%）、「オンラインの方が対話しやすいから」（10.5%）など、コミュニケーション手段としてのオンライン会議の優位性を挙げる企業は少ない。これは、オンライン会議に関して、テレワークやハイブリッドワークを支える仕組みとしての評価は高いものの、純粋なコミュニケーション手段としては見られていないことの現れだ。

図1-2：企業がオンライン会議を活用する理由（有効回答256件／複数回答）



資料：一般社団法人オンラインコミュニケーション協会「大企業のオンライン会議活用に関する実態調査」（2023年10月調査）より  
<https://onlinecommunication.jp/457/>

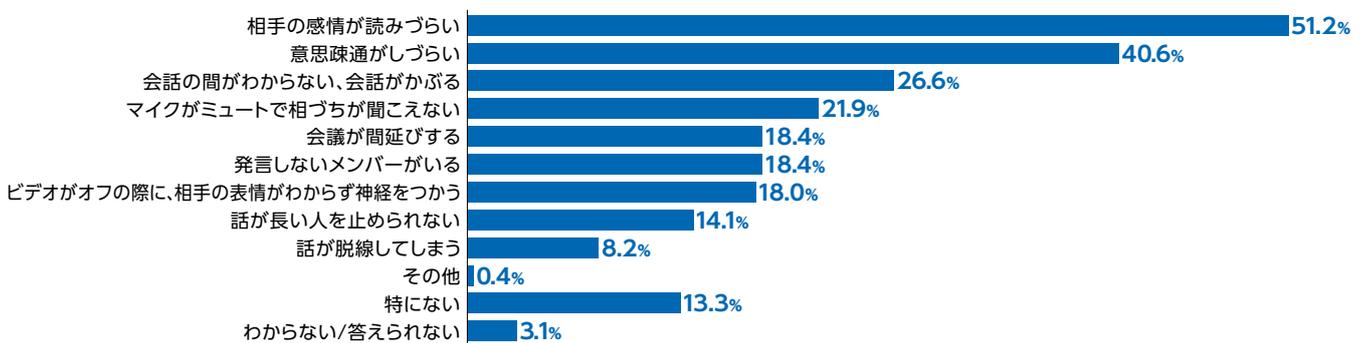
## オンライン会議に求められるカイゼン

対面会議では通常、オンライン会議よりも参加者全員の表情や体の動きなどがより細かく、つばさに捉えられる。そのため、コミュニケーションや意思疎通がスムーズになり、会議が効率的で効果的になる。対面会議とまったく同じような環境をオンライン上で実現するのも難しい。とはいえ、**ビジネスコミュニケーションの手段としてオンライン会議を数多く使う以上、その環境を可能な限り対面会議に近づけること、あるいは、オンライン会議を巡る課題を解決して、その効率性や有効性を高めることが重要だ。**

コミュニケーションは会話の内容だけでなく、表情や声のトーンなどさまざまな要素を加味して行われる。コミュニケーションにおける情報は視覚や聴覚の情報が主で、言語情報は1割にも満たないという「メラビアンの法則」を鑑みるのであれば、円滑なコミュニケーションを実現するには対面会議となるべく近い環境を実現するオンライン会議システムが必要だろう。

では、オンライン会議の活用にはどのような課題があるのだろうか。それを示す調査データの一つが図1-3だ。この図の通り、ビジネスパーソンの多くが相手の感情の読みにくさや意思疎通のしづらさ、会話のしづらさをオンライン会議の難しさとして挙げている。

図1-3：ビジネスパーソンがオンライン会議に難しさを感じる場面（有効回答256件／複数回答）



資料：一般社団法人オンラインコミュニケーション協会「大企業のオンライン会議活用に関する実態調査」（2023年10月調査）より <https://onlinecommunication.jp/457/>

図1-3に見られる課題の中には「可能な限り画面や音声をオフにしない」「視線を常にカメラに向ける」など、オンライン会議でのコミュニケーションの取り方に工夫を凝らせば解決できるものもある。

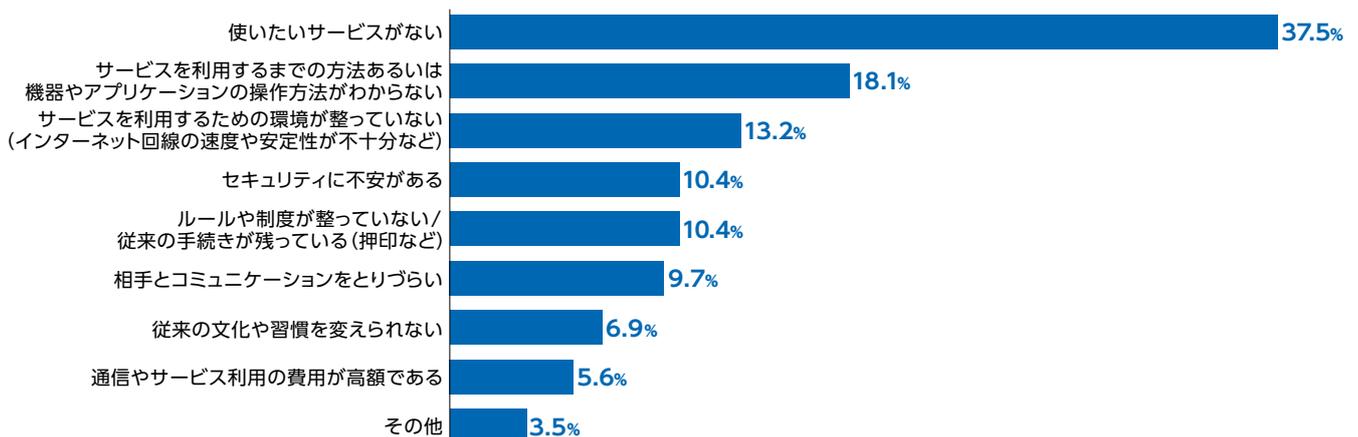
ただし、相手の感情や考えなどをしっかり捉え、意思疎通を確実に行うには、コミュニケーションの取り方を改善するのと併せて、オンライン会議に使うシステムの映像や音声の品質を向上させる必要がある。例えば、オンラインコミュニケーション協会の別の調査（\*2）によれば、外部音（雑音）が入って音声が聞き

取りづらかったり、電波状況が悪く画面や音声が乱れていたりすると、オンライン会議の相手に不満を抱くビジネスパーソンは多いという。そうした不満を回避するためにも、画面や音声を可能な限りクリアにすることが大切になる。

\*2 参考：一般社団法人オンラインコミュニケーション協会「『社外の人（取引先や商談相手）とのオンラインコミュニケーション』に関する実態調査」  
<https://onlinecommunication.jp/277/>

また、オンライン会議の別の課題を示唆する総務省の調査データもある（図1-4）。

図1-4：テレワーク&オンライン会議が利用できない主な理由（有効回答144件／複数回答／単位%）



資料：総務省「情報通信白書 令和5年版」のデータに基づき作成 <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r05/html/datashu.html#f00326>

この調査結果で注目すべきなのは、テレワークやオンライン会議が利用できない理由として、回答者の比較的多くが「サービスを利用するまでの方法あるいは機器やアプリケーションの操作方法がわからない」と答えていることだ。

今日では、多くの人々が自分のパソコンを使ってオンライン会議に参加することに慣れ親しんでおり、オンライン会議の使い方が分からない人はごく少数だ。とはいえ、オンライン会議を利用する全てのビジネスパーソンがその利用方法に精通しているわけではない。また、企業の会議室に設置し、集まった全員が共同で使うタイプのオンライン会議システムは、扱い方が複雑で会議の開始・運営に手間取ることがよくある。故に、システムの使い勝手の改善もオンライン会議には求められるといえる。

ちなみに、ビジネスパーソンの9割強がオンラインコミュニケーションツールを使いこなせない人との今後の取引を考慮してしまうという調査データ(\*3)もある。このような感情を取

引先に抱かせないためにも、使い勝手の良いシステムを選ぶべきだろう。

\*3 参考：一般社団法人オンラインコミュニケーション協会「『社外の人（取引先や商談相手）とのオンラインコミュニケーション』に関する実態調査」  
<https://onlinecommunication.jp/277/>

以上に示したオンライン会議の活用を巡る主な課題は、以下の4点にまとめることができる。オンライン会議の効率性、有効性を高めたいと考えるならば、これらの課題の解決に取り組むことが大切だ。

#### オンライン会議を巡る課題：

- 映像の品質が低く相手の表情や感情が捉えにくい
- 音声の品質が高くなく会話がしづらい
- 雑音が入り相手の発言が聞き取りづらい
- 使い方が分かりにくいシステムがあり会議の運営に手間取ることがある

## PART② オンライン会議の課題解決に役立つ日本HPの「Poly」

前パートで触れた「オンライン会議を巡る課題」の解決に役立つソリューションを提供しているのが、日本HPの「Poly（ポリー）」だ。Polyのビデオ会議ソリューションは、ビデオ会議システムで定評のあったPolycomの後進ブランドとしても知られており高品質な映像と音声、簡単操作を特長としている。

### 場所や用途を選ばず高品質なビデオ会議を実現

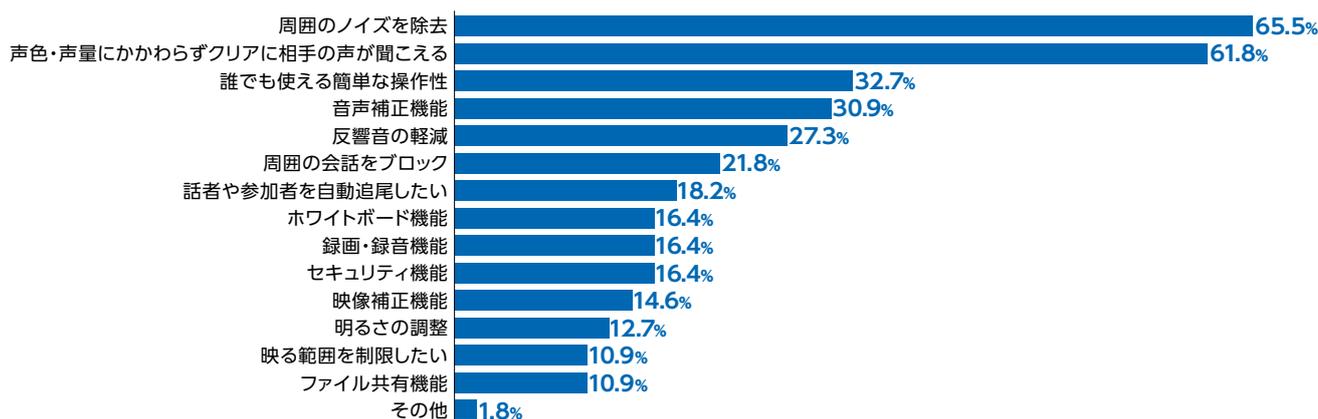
Polyのビデオ会議ソリューションは、役員室や会議室での日常的な打ち合わせから重要な意思決定を行う会議まで、場所や用途を選ばずに、誰とでも円滑なビデオ会議を実現する仕組みだ。「Microsoft Teams」「Zoom」「Google Meet」はじめとする多様なビデオ会議ツールに対応し、会議の人数や用途に合わせた豊富な製品をラインアップしている。それら製品の多くに

共通する特長をまとめると以下ようになる。

- 会議参加者の表情、動きをクリアに捉える高品質映像のサポート
- 円滑なコミュニケーション、意思疎通を支える臨場感のあるクリアな音声
- 対話の邪魔になるノイズをカットする音声処理機能の装備
- 誰にでも簡単にビデオ会議が始められる優れた操作性

これらの特長からも分かる通り、Polyは前パートで触れた「オンライン会議を巡る課題」を解決し得るソリューションだ。また、日本HP独自のアンケート調査の結果を見ても、ユーザーの過半数がビデオ会議デバイスに高品質の音声を強く求めていることが分かる（図2-1）。こうしたニーズに対応していることが、Polyが国内外の企業で広く利用されている理由でもある。

図2-1：ビデオ会議デバイスにユーザーが求める機能（有効回答55／複数回答）



資料：日本HP「ビデオバーに関するアンケート」

## 使い慣れた会議ツールで 高品質の映像・音声による会議を実現

例えば、ビデオ会議ソリューションの主力の一つ、カメラ、マイク、スピーカーが一体となったビデオバー「Poly Studio USB」を会議室に置いておけば、「Zoom」「Microsoft Teams」「Google Meet」などを使っているノートパソコンを会議室に持ち込んでビデオバーとUSBケーブルでつなぐだけで、ビデオバーが会議室の参加者全員を映し出し、クリアな音声で会話ができる快適なビデオ会議が簡単に会議室で開始できる。また、「4K/視野角120度」のカメラを装備するほか、AIを搭載した「自動カメラフレーミング機能」やビデオバーを起点に仮想フェンスをつくり、その外側からのノイズを除去する音声機能などをサポートしている。販売価格も約12万円なので、予算をかけずに導入が可能だ。従来

のビデオ会議端末は高額な製品が多く、一部の会議室にしか設置がかなわない企業も多かったが、この価格帯ならより多くの会議室を最新の動き方に合わせた環境に整備できるだろう。なお、Poly Studio USBの下位モデルとして、小規模なビデオ会議スペース向けの「Poly Studio R30」も提供している。

さらに、PC無しでもZoom/Teamsミーティングを開始できるビデオ会議用OSを搭載したオールインワンの形で提供する「Poly Studio X」シリーズもラインアップ。その最上位モデル「Poly Studio X70」では、デュアル4K UltraHDレンズや自動カメラフレーミング機能などの機能をサポートしている。

この他、Polyでは、大規模会議室や研修室に適したモジュラー式ビデオ会議システム「Poly G7500」や、ノイズ除去機能や高品質映像をサポートするHP Mini Conferencing PCをバンドルしたビデオ会議用キットなども提供している。

「Poly Studio USB」の外観イメージ



HP 希望販売価格 124,080円 (税込)

「Poly Studio R30」の外観イメージ



HP 希望販売価格 108,570円 (税込)



## PART③ 大手企業の事例に学ぶオンライン会議をカイゼンする方法 ～UDトラックスが「Poly」で実現したオンライン会議の変革

大手トラックメーカーのUDトラックスは、本社の会議室で利用するオンライン会議システムを「Poly」に切り替えた。これにより、オンライン会議の映像と音声の品質を高いレベルで確保しながら、システムの使い勝手を向上。併せて、オンライン会議に利用できる会議室も従来の約3倍に増やし、従業員の生産性向上に役立っている。

### ビデオ会議システムの増強に向けて

UDトラックスは、1935年に創業され2025年に創業90周年を迎えるトラックメーカーだ。アジアや、アフリカ、中近東など世界60カ国以上で販売サービスを展開。時代が求める製品、サービスの提供に向けて常に挑戦を続け、世界初・日本初といわれる技術を数多く開発してきた。日本国内ではけん引車（トラクター）の市場でナンバーワンシェア（2023年度47.0%）を保持する。

また、07年にはボルボ・グループに入ったが、ボルボ・グループといすゞグループの戦略的提携に基づき、2021年4月からはいすゞグループとなっている。

そうした同社ではボルボ・グループに入ってすぐの頃から電話

会議システムなどのオンライン会議システムを使っていた。後にはビデオ会議システムを本社の会議室に導入し、10年近くオンライン会議の運用を使い続けていたという。

「当社が使っていたビデオ会議システムは、映像と音声の品質がとても高いものでした。しかし非常に高額であり数を増やすこともできず、本社で働くおよそ2000人

の従業員の需要に対しては十分なものではありませんでした。その課題の解決に乗り出したことが、Polyの導入につながりました」（UDトラックス 福田洋平氏）



UDトラックス株式会社  
Digital Solutions and IT  
IT Infrastructure Management  
Onsite Japan  
Senior Manager  
福田 洋平氏

### 徹底した検証の末にPolyを選択

UDトラックスが、従来のビデオ会議システムから新システムへの切り替えに乗り出した背景にはコロナ禍の終息がある。

「コロナ禍の終息によって本社での集合会議を行う頻度が、コ



UDトラックス株式会社  
Digital Solutions and IT  
IT Infrastructure Management  
Onsite Japan  
Team Lead

井上 奈保子氏

複数人が混在するコミュニケーションに対応するために、会議室に設置するビデオ会議システムを増強したいと考え、コストパフォーマンスに優れた製品を探すことにしました(福田氏)

この製品探しの中で、同社がこだわったのが映像や音声の品質だ。「ビデオ会議での映像や音声の品質で、会議運営の効率性は大きく上下します。特に音声品質が悪いとコミュニケーションや意思疎通が成立しなくなります。そのため、ビデオ会議システムを長く利用してきた当社では、経営陣も含めてビデオ会議の音声品質に強いこだわりを持つ人が多くいます。故に、コストパフォーマンスと併せて映像品質や音声品質の高さを重要な要件として導入候補を絞り込み、実地(本社会議室)で複数社の製品を取り寄せ1カ月かけて徹底的に検証を行いました」(UDトラックス、井上 奈保子氏)

この検証の結果、映像品質・音声品質が共に最も優れていたのがPolyだった。また、製品の検証に対する日本HPの支援が最も手厚く「それもPoly採用の一因になりました」と井上氏は明かす。

## 扱いの簡単さで利用の裾野が広がる

こうしてPolyの採用を決めた同社では24年4月までに本社会議室への設置を完了させ、運用を開始させた。導入したモデルは中規模会議用のビデオバー「Poly Studio USB」と小規模会議用のビデオバー「Poly Studio R30」。両モデル合計で22台が導入され、本社各フロアの会議室に設置された。

「22台は従来のビデオ会議システムの3倍に相当する導入台数です。これは、従業員たちが会議室から高品質なビデオと音声で外部とつながれる機会が3倍に増えたことを意味します。しかも、他の同種のデバイスに比べてPolyの扱いは極めて簡単で、ビデオバーからのUSBケーブルを自分のパソコンに接続するだけですぐに会議が始まります。今回のPoly導入を契機に、会議室でのビデオ会議の利用が大きく活性化すると期待しています」(福田氏)

福田氏は、Polyを初めて使う従業員のために同デバイスを

設置した会議室に簡易のマニュアルも用意した。そうした利用促進の施策とPolyの使いやすさから、同デバイスの活用の裾野はすでに広がり始めている。

「Polyに対する社内の評判はとても良好で、『使いやすくして高性能』『ノイズがカットされ音声がクリアなので快適』といった声が多く聞かれています。また、その使いやすさと映像・音声品質の高さから、一部のビジネス部門では、自分たちの予算を使い、自分たち専用の会議室にPolyを導入しているケースもあります。彼らは外部のパートナーとのオンライン会議を重要視しており、高品質な映像と音声で意思疎通を間違いなく行うことを望んでいます。そのニーズにPolyが合致したようです」(井上氏)

もちろん、オンラインを通じて外部とつながる集合会議は自席や自宅のパソコンからも行える。ただ、福田氏によれば、関係者が会議室に集まり、高品質な映像と音声で外部とつながることにはさまざまなメリットがあるという。

「会議に参加する人の多くが物理的に同じ場所にいれば、会議の運営は効率化されます。その上で外部と高品質な映像と音声でつながることができれば、運営はさらに効率化され、外部からの参加者も、相手チームの様子や雰囲気などがつづさに分かり、安心感や参加意識の高まりにつながります。だからこそ、Polyのような仕組みは有用なのです」(福田氏)

さらに福田氏は、Polyに対する評価と活用の今後について次のようにまとめる。

「意思疎通と情報共有の場である会議は、相手の顔がしっかりと見えて、参加者全員の声クリアに聞こえることが基本です。ビデオ会議においても、状況が許す範囲でお互いのビデオ映像をオンにして利用するように勤めています。システムは映像品質が高く、音声についてもノイズがカットされ、会議室の端にいる人の声もきちんと拾えるようであればなりません。その上でコストパフォーマンスが高く、誰にとっても使いやすいシステムであることが大切です。そうしたシステムの要件を全て満たしているPolyを使いながら、より良いビデオ会議体験を提供できればと考えています」



株式会社 日本HP

<https://www.hp.com/jp-ja/poly.html>

お問い合わせはこちら

[https://jp.ext.hp.com/prod/poly/sales\\_contact/](https://jp.ext.hp.com/prod/poly/sales_contact/)

Polyビデオバー紹介動画はこちら

[https://jp.ext.hp.com/techdevice/poly/video\\_bar\\_movie](https://jp.ext.hp.com/techdevice/poly/video_bar_movie)

Polyビデオバーの購入はこちら

<https://jp.ext.hp.com/accessories/business/poly/>